

第 1 回保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議 御意見等

資料 1

番号	項目	内容	対応
1	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	ぜひ言語聴覚士については、養成課程を作っていただきたいと強く思っています。千葉県内には国際医療福祉大学に1校学部がありますが、それ以外は全くございません。 県内の人材を見ると、小児、障害領域、そして高齢者領域、どこを見てもSTは足りない。皆さん、病院に手配できないというだけではなくて、特に発達相談とかやっている自治体の中でも全然STが手配できないというような話がありますので、そういう意味ではぜひST、言語聴覚士のコースを作っていただきたいと思っています。	新たな学部・学科の必要性の検討において、言語聴覚士養成の学科の設置について検討します。（資料3「教育内容と必要な組織等に関する調査検討」・p10）。
2	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	大学院について、県の健康課題を分析したり、共生社会における、社会モデルとしての障害をどれだけ解消していくかという視点を作り、政策提言ができるようなリハビリテーションの専門職、これは学部教育ではできませんので、そういう人材を育成できる大学院というのをぜひ、私は期待したいと思っています。	大学院の設置可能性に関する検討の中で、リハビリテーション領域を大学院に設置することについて検討します。（資料3・p15）
3	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	千葉県の特徴は、成田空港を有しているということです。ますますアジアとの関係が強化されていかなければならないときに、この千葉の立地というのは今後日本の窓口として、非常に有利だと思います。そこにDX・AI、これは今の時代にマストであります。これを取り入れず、従来型の教授法等というのはもうありえない。そういう中で最先端の教育法、学習法を取り入れた大学を作るとことは喫緊の課題だろうと考えております。 千葉から最先端のAI・DXを備えた、技術力、知力を備えた大学院卒の高学歴人材を出していくことは、非常に大事だと思っています。	デジタル化、国際化への対応について検討します。（資料3・p9）
4	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	キーワードは、外国。諸外国との付き合いになる。日本人だけを学生として抱えるのではなく、広く海外の人材を集めてイノベティブな組織を作っていく。そしてお金につきましても、広く民間の、内外のお金を集められるようなテーマを作って、ファンディングにも工夫をする。ぜひ民間の力を取り入れてやっていただけたらと思っています。	国際化への対応について検討します。（資料3・p9）
5	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	S Tの人材が必要という声がよく上がっています。委員もおっしゃっていましたが、千葉県内とS Tの養成校が1校しかないということで、今、医療現場や地域の中でもS Tという人材の必要性が高まっています。	新たな学部・学科の必要性の検討において、言語聴覚士養成の学科の設置について検討します。（資料3・p10）。
6	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	現在、幕張キャンパスと仁戸名キャンパスの2キャンパスですが、私が学生の頃も、2つのキャンパスをリハの学生のみが行き来するということで、学生の中での差があり、他の学部学科の人達とも交流が少なく、リハビリテーション学科だけ少し孤立しているような状態がありました。今の医療現場では、やはりチーム医療というのが大切になっています。私は学生の頃、他学科である看護学科、栄養学科、歯科衛生学科とともに勉強した上で、チームで話し合う講義がありましたが、他職種の仕事の特性、考え・視点をそこで初めて知ったことも多くありました。それが今の現場で私が働いている中で、とても役に立っていると大きく感じております。やはり医療専門大学ということで、他学科がある中、1つのキャンパスで学ぶことで、これから求められている人材が県内に輩出できるのではないかと思います。そのため、統合も含めて検討いただければと思います。	キャンパス立地については、第3回会議で検討します。

番号	項目	内容	対応
7	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	千葉県の経済同友会では、ヘルスケア産業というのは千葉県の発展を支える重要な柱だという提言をしています。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
8	報告事項（1） 「大学の機能強化に向けた検討に際しての論点の提示」について	学長の仰っているヘルスデジタルサイエンス、私も賛成でございます。ぜひこの学部・学科を実現していただきたいと個人的に思っています。 一般企業では、物事を決めるときには必ず投資とその成果、リターンを検討します。特に、この学科を設置した場合、一体何を数値として実現するのかというところを、ぜひ明確にさせていただきたいと思います。また、この学科を出た人が、どのような企業や公的な仕事に従事していくのか、ぜひ出口戦略も御検討いただければと思っております。 特に介護関係ではアウトカム評価、単に闇雲にやるのではなく機能改善がどれだけ図れているか、数字できちっと把握するという流れが出てきていると思います。そのような観点で、検討していただければと思っております。	新たな学部・学科の必要性の検討において、デジタルヘルスサイエンスの学科の設置について検討します。（資料3・p11）。
9	協議事項（1）アンケート調査について	調査対象について、高校生は、保医大への進学実績がある千葉県内の高校3年生2000名程度となっていますが、そうなるとバイアスがかかる可能性もあるので、進学実績だけにあまりこだわらず、できれば広く取っていただきたいと思います。	アンケートの対象数を高校3年生2,000名から、高校2.3年生16,500人に拡大しました。
10	協議事項（1）アンケート調査について	欲しいサンプル数が2,000人の中で、少ないサンプル数になる可能性がある。高校では進路指導が行き届いているので、できれば県内の進路指導の先生宛に送付して、保健医療系に関心のある生徒に配布していただくよう依頼することはできないかと思っています。	アンケート調査への依頼先への負担から、高校生対象のアンケート対象数を拡大することで、保健医療系に関心のある生徒の母数を拡大しました。
11	協議事項（1）アンケート調査について	医療従事者と医療機関への調査について、先ほどからSTについての人材育成をぜひ検討して欲しいという御意見もいただいているので、この医療従事者の中に言語聴覚士も対象に入れていただきたいと思いますと思っております。	言語聴覚士もアンケート対象に加えました。
12	協議事項（1）アンケート調査について	保医大では看護師、保健師、助産師を養成しておりますので、助産師もここに含めていただきたいと思います。	助産師もアンケート対象に加えました。
13	協議事項（1）アンケート調査について	、配布先に県内保健所がございます。おそらくこれは保健師等を想定しているのかとは思いますが、市町村の方が圧倒的に、保健師の数は多いです。なおかつ、規模の大きな市町村ですと、栄養士、それから歯科衛生士といった職種も配属されていますので、ぜひ市町村を入れていただきたいと思いますと思っております。	市町村をアンケートの依頼先に加えました。
14	協議事項（1）アンケート調査について	医療機関宛ては、人材採用担当育成担当者となっていますが、大きな医療機関や市町村等に送っていただく際、人事担当の方が全ての職種の人材育成のことを把握している訳ではないので、できるだけその職種の人材育成に関わっている人達に配布をしてもらえるようお願いをしていただきたいと思います。	アンケートの依頼先を職種の人材育成担当者等としました。
15	協議事項（1）アンケート調査について	卒業生のもの、医療従事者のものの中で、最後の方に、「大学院に入学した理由」「入学を希望している理由」というのを、1つだけ選択するようになっているのですが、自分の経験上、1つだけではなかったというのがありました。論点提示でも御説明いただいたように、看護師の管理者の方が修士を取りたいというのがありましたが、管理者として働くためにという方もいらっしゃいますが、私自身それだけではなく、修士を取りたいということもありましたし、現場指導者として働きたいなど、ここにあるものがかかなり重複して考えられますので、もう少し整理された方がいいと思いました。同じような質問が医療従事者の方にもございましたので、御検討いただけたらと思います。	複数選択を可能なように設問構成を変更しました。

番号	項目	内容	対応
16	協議事項（２）教職員ヒアリングについて	私どもの大学は、いわゆる各種高度専門医療機関にもたくさんの人材を排出しておりますが、ここでは地域包括ケアのことが主題として書かれています。今後必要とされる、現在、大学病院やその他の専門医療機関で必要とされている高度医療専門人材育成を加速することも、想定されると思います。その点がここでは抜けていると思うので、再度聞いていただいて御検討いただきたいと思います。	高度医療専門人材への必要性は、医療機関へのアンケートおよび他大学調査での現任教育を参考に調査を行う予定です。
17	協議事項（２）教職員ヒアリングについて	ヒアリング結果をどういうふうに分析して反映するかということは、事前に私たちに提示はされないのでしょうか。「こういう意見が多かったです」だけで終わってしまうと、ありがちなという気がします。	第2回検討会議でヒアリング結果の速報版を報告するほか、ヒアリング結果も踏まえて資料３を作成しました。
18	協議事項（２）教職員ヒアリングについて	保医大は結構非常勤講師が多く、その非常勤講師の方は他の大学にもいろいろ行かれています。例えば非常勤講師にヒアリングをして、他の学校との比較をしてもらうというようなことは考える余地が無いのかをお聞きしたいです。	他大学事例調査にて、保医大との比較調査を行います。
19	協議事項（３）他大学事例および公立大学法人等調査について	日本以外の事例を参考にしたらいいと思います。先進国、もしくは発展途上国の課題を見つけるためにも、海外の事例研究が必要と考えます。	いただいたご意見を踏まえ、調査内容を検討します。
20	協議事項（３）他大学事例および公立大学法人等調査について	神奈川県立、青森県立、埼玉県立の辺りは、非常に素晴らしい活動をされていると記憶しておりますので、かなり参考にできるものがあるのではないかなと思っております。私としてはこの３つの大学のような大学を希望します。	他大学調査において、神奈川県立保健福祉大学の取り組みを参考にいたします。
21	協議事項（３）他大学事例および公立大学法人等調査について	実践センター、研究センター、社会貢献センター等、名前が大学によっていろいろですが、そういう機能を持った大学附属のセンターが大学の教育・人材育成・社会貢献に非常に良い循環をもたらし、機能していると思います。また、教職員がどう配置されているのかということも含めて調査していただきたい。	神奈川県立保健福祉大学の実践教育センターを調査先とするほか、いただいたご意見を踏まえて調査内容を検討します。
22	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	歯科の分野では長いこと歯科衛生士の人材不足が続いております。歯科衛生士の人材確保、人材育成に関わる指導者的立場というのでしょうか。衛生士を育てるような立場になる衛生士を育成して欲しいと思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）
23	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	千葉県は神奈川県の後塵を拝することが多く、残念な思いをしております。この大学は神奈川県に負けてたまるか、そういう気持ちでおりますので、中村座長のお知恵をお借りして、立派な大学にしていってもらいたいと思います。千葉県は看護大学院が無いものですから、優秀な人材が東京等に流れてしまいます。ぜひそれを阻止していきたい、そういう風に思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）
24	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	今、骨太の方針などでも歯科のことが取りざたされるようになりました。これからは、歯科保健分野といいますか、行政も歯科保健分野に、力を注いでいかなければいけないと思っております。そういった歯科保健の普及啓発に努める人材を育てていただきたいと思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）
25	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	大学院の、高度の知識や技術を持った看護師の育成というのは、大変期待ができるところで、よろしくお願ひしたいと思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）

番号	項目	内容	対応
26	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	大学院設置をして、卒業生には千葉県下の栄養士を牽引していけるような実力を備えた人材の教育をしていただければと思います。 医学の色々な局面が変わったりすると、栄養士の仕事も非常に幅広く、奥深いものになってきますので、今後はシンクタンクとして卒業生を再教育していただけるような、そういう機能をぜひつけていただきたいと思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）
27	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	歯科衛生士は、私も2年制で卒業しまして、大学院は県外のところで修士課程を取りました。まだまだ他の職種と比べて、学ばなければ、連携を図っていくには難しい状況にあります。ですので、この青森県立保健大学のように、公衆衛生学修士、ここにしっかりと歯科衛生士の教育も入れ込んでいただければと思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）
28	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	新卒の大学院の教育だけではなく、働きながら学べる社会人の教育にも、ぜひ力を入れていただいて、千葉県の政策に提言できる職種と肩を並べて歯科衛生士もやっていきたいと思います。	大学院の設置可能性に関する検討の中で検討します。（資料３・p15）
29	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	キーワードとしては、千葉県だからというところを最優先していただければと思います。個としての医療専門職として備えなければいけないことは、実は千葉県であろうがどこであろうが、同じじゃないかと思います。特にDX・AI等々については、今どこに行ってもそれは必要になるわけで、千葉県だから、ということを考えられる人材である必要があると思っています。 卒業生にはやっぱり千葉県に興味を持ってもらって、千葉県に住み続けて、千葉県で働き続けるということを考えてもらえるような人に育って欲しいと思います。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
30	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	リハビリテーション専門職は行政職の必置基準がないので、千葉県の中でも市町村でいるところはまだ５４市町村のうち２０ぐらいですが、本来であればここを卒業した人が行政職になって、そこでちゃんと市の計画、県の計画等々を、提案できるような人材を出していただきたいです。	大学院の設置可能性に関する検討の中で、リハビリテーション領域を大学院に設置することについて検討します。（資料３・p15）
31	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	ぜひ教育の中で、千葉県としての部分をもう少し入れていただきたい。この調査についても、そこをもっと入れていただきたいと思います。例えば私、ちょっと記憶が間違っていたら申し訳ないですけど、例えば、私が住んでいるのは佐倉市ですが、すぐ隣の四街道市が確か全国で一番アフガニスタン人の移住が多いと聞いております。そういうところは、海外の人たちが病気になったときどうするかっていう特殊な状況ができます。そういうことも踏まえて何が必要かということもやって欲しいです	国際化への対応について検討します。（資料３・p9） そのほか、いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
32	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	先ほどのアンケートを見ると、医療機関のところが大きい市町村しか書いていませんが、千葉県一番実はキーになるのは、山武長生夷隅であったりとか香取海匝であったりとかいう医療資源の乏しいところ、そういうところに、じゃあどうするっていうのがわかるような調査をやっていただいて、千葉県を愛する人、そういう人をぜひ育てていただきたいなと思っています。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
33	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	高度専門職、倫理感の高い人を育てるというのは当たり前ですが、画一的な人材ではなく、金太郎飴的なマニュアル的な人ではなく、考える人材を育てていただきたい。その心は何かというと、田中委員がおっしゃったように、千葉特有のものを利して、他ではできないようなことをしていく。できることならば、千葉が、千葉医療特区化し、成田空港を利して、多くの外国人が日本で治療を受ける、それがビジネスになる、と。千葉というのは医療メッカだ、というようなことを目指して、神奈川県に負けないということではなく、日本のトップ、東南アジア、東アジアから、モデルと言われるような、保健医療専門職種を作る理想を掲げると、お金も集まってくるのではないかなと思います。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。

番号	項目	内容	対応
34	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	まずは、大学の理念・目的で、県民の保健医療の向上に寄与するという、これを強く意識する必要があると思います。 当然ながら千葉県での医療ニーズというのは、かなり大きく変化しています。当然全国でも変化しているのですが、特に千葉県の場合は、地域の過疎化というのは首都圏の中でも特に目立つということなので、そこを意識する必要があります。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
35	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	それから国際化ですね。これは成田空港があるということもありますが、実は外国人比率というのが、推計によれば、５０年後に１０％超えてくる、かなり多い地域なので、先ほども話ありましたが、ここをどう考えるかを意識しながら教育をしていく必要があるんじゃないかと思います。	国際化への対応について検討します。（資料３・p9）
36	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	その上で、千葉県で働いてもらうために、どういう教育をするか、もうすでにやられているかもしれませんが、例えばその奨学金制度みたいなもので、千葉県で働いた場合に優遇するとか、地域に貢献するためにどうすればいいかいうことをよく考えてやっていただければなと期待しております。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
37	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	今後明らかに医療分野で、外国人への医療の提供が求められてくるので、医療英語などの専門言語の分野を強化していただきたいです。	国際化への対応について検討します。（資料３・p9）
38	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	資料にもリスクリングの関係のことが書かれていると思います。社会人が自分で思い立ったときに戻ってきて勉強できるような環境を、ぜひ実現していただきたいと思います。	「スキルアップ教育支援センター」において卒後の教育を行うことについて検討します。（資料３・p23）
39	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	私は出身の大学の大学院に行ったので、大学院が千葉県立保健医療大学に無かったということのを改めて知り、ぜひ設置していただければと思います。現職でやっている立場から言いますと、数年働いていろいろと課題が見えてきたりしたときに、自らどうしていったらいいのだろうということを考えられる人材を育てていただけたらと思います。それは学部教育の中でもできるかと思いますが、やはり現場で経験を積んで、さらにブラッシュアップできる人材に育てていけるような大学であって欲しいと思います。	大学院の設置可能性について検討します。（資料３・p15）
40	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	女性も男性もそうですが、なかなか育児で大学院までは行けないということがあります。ある程度年齢がたって学ぶことになったときは、管理的立場にあることが多いので、その管理者の視点で考えられる現状分析して、どう健康課題を改善していったらいいかというところが研究的な視点とかで人に伝えられるような、論述力のある人材を育てていただければと思います。	大学院の設置可能性について検討します。（資料３・p15）
41	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	せっかく千葉県にありますので、千葉県の大学院の先生方と、現職の専門職と一緒に研究活動ができるような場があると、地域に貢献することになると思いますので、ぜひ御検討していただければと思います。	その他必要な機能強化の検討の中で検討します。（資料３・p22）

番号	項目	内容	対応
42	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	千葉県で働いており、現場からも今、医療者不足ということで人材不足がすごく言われています。その確保にも大学の存在が大事なのと、その中で今、臨床で働いていて、様々な学生を担当する機会が多くあります。割合的には、県立保健大学の学生は結構優秀で向上心がある学生がとても多い印象があります。その中で、就職を県内ですするという方も多いですが、大学院への進学を検討している学生や卒業生は少なからずいると思います。大学院に進学することで、今後の後輩を育成するという立場からも、大学院の設置は意義があると感じております。 卒業生としても身近にあることで、大学院の進学を検討してみようかと、今後の検討材料1つになると思っています。	大学院の設置可能性について検討します。（資料３・p15）
43	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	将来の困難を解決するような想像力を持った学生を大学で育てるというような体制ができればいいなというのは、私が心から思っているところです。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
44	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	保医大は千葉県の保健医療の実践力を高める人材をとにかく育成したい。大学院というと、教育研究者の育成という柱もありますが、それは千葉大にもあることで、保医大はやはり専門職の高度実践力というところを目指したいという話をしていました。 千葉県に貢献するというところで、地域包括ケアを推進できるリーダー的な人材育成、特に保医大は多職種連携教育というのはすごく力を入れているので、それをさらに実践力を高め、マネジメント力をさらに高めることによって、地域包括ケアを推進できる人材が育成できるんじゃないかと考えています。	いただいたご意見を踏まえ、大学院の教育内容等を検討します。
45	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	地域の健康課題を分析するというのが必須になってくるので、ビッグデータを扱って、それを分析するのにデジタルサイエンスの能力も必要となってくる。だけどそれはあくまでも地域の保健医療に生かしていく。ビッグデータを分析して、政策提言もできるような企画力、創造力、そういうものが備わっている人材、それをベースにして、保医大が養成している専門職の高度実践能力を高めていくという、そういった大学院にしていきたいなと思っています。	いただいたご意見を踏まえ、大学院の教育内容等を検討します。
46	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	大学は未来への投資だと言われるのですが、今現在の社会は未来が見えにくくなっているから、なかなか大学もどういう方向を向いたらいいかわからないのではないかと思います。私も、神奈川県でいろんなことを議論してやってきたのですが、一番この大学を愛している人達というのは、ここの卒業生です。ここは大事なポイントだろうと思います。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。
47	協議事項（４）保健医療大学で養成すべき人材像について	大学を作って、大学が自立してくのには４０年ぐらい掛かります。そのポイントは、卒業生の中から教授が何人出るかということなんですね。つまり、自分たちで教育をし、自分たちで運営していくには、４０年はかかります。そこになると大学はもう自分で回っていくんですね、自立していきますから。そこに至るまでは、いろんな人がそれをサポートしてあげないと、よろよろしていくので。保医大はまだできて２０年ぐらいだろうと思いますので、関係者でしっかり支えて、卒業生自身が自立した大学で、人々に貢献できるというのをやらなければいけないのではないかなと思っています。	いただいたご意見を踏まえ、教育内容等を検討します。

番号	項目	内容	対応
48	会議後メール	アンケートについて 昨日、ご説明いただいた資料2の「調査検討の実施」として挙げられてる4点と、アンケートがどのように結びつくのかわかりにくいというのが正直なところでした。 アンケートをやることが目的であり、その結果がどこに活用できるかは別の話・・・というように見えました。 時間がないことは理解できておりますが、可能であれば卒業生で現在県内でそれなりの位置で働いている人に対してインタビューを行い、その結果からアンケート項目を抽出して量的に妥当性を測るためのアンケートを行うべきであろうと考えております。	ご意見の趣旨を踏まえ、アンケート結果から具体的な検討につながるよう結果を取りまとめます。
49	会議後メール	言語聴覚士についても、問11、12の選択肢に入れておいて欲しいと考えます。	アンケートの調査項目に加えました。
50	会議後メール	②ヒアリングについて 昨日もお尋ねしましたが、ヒアリング結果のまとめ方と使い方をもう少し検討しておくべきと思いました。 他学へのヒアリングについて、結果をそのまま見ても「そうだね、あそこの大学はこういうの素晴らしいよね。でもあの県だからだね。千葉もこういうのやるべきだね」となることは想像できます。しかし、これらを「総合的に考えた場合、保医大はどうすべきか」に反映できるかが疑問なのです。できればヒアリング結果の全体として「保医大は何を強化すべきか」がある意味客観的に理解できる取りまとめ方法を検討すべきと考えます。 同様に保医大の先生方へのヒアリングも、その結果が想像できるのです。学部・学科によって教授の意識が違いすぎることはヒアリングする前に想像できますし、一部には悲しい結果があることも想像できます。したがって、「保医大全体として」という解釈ができるヒアリング結果の集約方法を検討してから実施していただければと思います。	ご意見の趣旨を踏まえ、ヒアリング調査から具体的な検討につながるよう結果を取りまとめます。